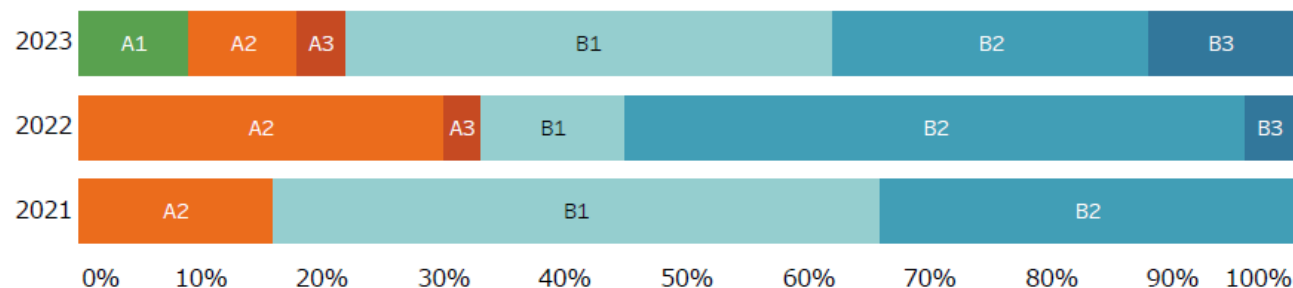


## 2023年 女子学院 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。問題数に大きな変化はありませんが2022年と比べてB1が増え、取り組みやすい印象を受けました。「40分」という限られた試験時間を有効に活用するためにも、A1、A2、B1レベルの問題は素早い処理が必要となります。同時に、随所に手が止まってしまう問題もあるため、時間をかけるべきものを取捨選択する判断力も欠かせません。今年は、大問3、大問5、大問6、大問7の取り組みで差がついたと思います。



大問1は、例年通りの計算、一行題の構成でした。(1)の逆算は手間がかかりますが、確実に処理をしておきたいです。(3)は、四捨五入に関する問題でした。2020年にも約数、逆数、円周率の定義について出題されましたが、JGでは、「基礎的な内容」の正確な理解は必須です。理解が曖昧な場合は注意が必要です。(4)は、例年出題される求角の問題でした。「ウ」が気づきづらいため、後回しにしてもよいと思います。(5)は、規則を見つけやすいので、焦らず確実に得点をしておきたいです。大問2(1)は、類題を経験したことのある受験生も多いと思います。大問2も得点しておきたい問題です。

大問3は、ランプの点灯に関する規則の問題でした。スイッチを押す順は、問題に示されている通りですが、題意がとらえづらく、焦った受験生も多かったと思います。最初は、すべてのランプが消えている状態となります。この状態からランプの点灯を調べると「16秒」で1周することがわかります。見通しが立たない場合、後回しにして、次の問題に進む方がよいです。大問4は、図形上を移動する点の動きをとらえる問題でした。落ち着いてグラフを読み取れば、答えにたどり着けます。ここは確実に得点しておきたいです。

大問5も規則をとらえて活用する問題でした。「J、G、G、J」のくり返しとなります。(1)は得点しておきたい問題です。(2)は、 $1023 = 3 \times 11 \times 31$ を利用しますが、気づきづらく、後回しにしてよいと思います。大問6は、マス目上を転がるサイコロの問題でした。類題を経験したことのある受験生も多いと思います。(3)で差がついたと思いますが、(2)を利用してすぐ見つかった受験生も多かったと思います。大問7は、遅れる時計の問題でした。計算の手間がかかる問題ですが、ここまでたどり着けなかった受験生も多かったと思います。大問7を見送って、他の問題に時間を費やす方が賢明と思います。

試験時間40分で、多種多様な問題に取り組んでいくため、素早い判断力、高い処理能力が必須となります。あくまでも予想ですが、大問3(3)、大問5(2)、大問6(3)、大問7を落としたとしても、およそ7割程度には達することができると考えられます。